

2021 年度以降に1年生から入学する方向け

2023 年度以降に3年生から編入学する方向け

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

福島大学の求める学生像(福島大学のアドミッション・ポリシー)

福島大学では、以下の要件を満たす学生を募集します。なお、「求める学生像」の具体的内容は、学類のアドミッション・ポリシー(AP)で示します。

1. 〈福島大学の教育目標〉を理解していること
2. 地域や社会の発展に貢献する志をもつこと
3. そのために、①選択した領域の専門知識、②問題を発見し探究する力、③広い教養と知的関心、④グローバルな視野、⑤主体的に多様な人々と協働する力、を自ら向上させようとする意欲があること
4. 福島大学での学士課程教育を受けるにふさわしい基礎的学力、思考力・表現力・コミュニケーション能力、現実の問題や学問への能動的姿勢を持っていること

入学者選抜の基本方針

福島大学では、すべての学類の入学者選抜において、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(以下、「主体性等」)」の「学力の3要素」を多面的・総合的に評価します。

学力の要素 評価方法	〈 学 力 の 3 要 素 〉				
	知 識 ・ 技 能	思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 表 現 力	主 体 性 等		
	知 識 ・ 技 能	思 考 力 ・ 判 断 力	表 現 力	意 欲 ・ 関 心 ・ 態 度 (主 体 性)	協 働 性
大学入学共通テスト， 個別学力検査	○	○			
実 技 (実 績 評 価)	○		○		
小論文，課題論文， 課題レポート	○	○	○		
総 合 問 題	○	○			
口頭試問，面接	○	○	○	○	
グループ討論		○	○		○
ポスター プレゼンテーション	○	○	○	○	
調 査 書				○	○
推薦書（学校）	○			○	
自己推薦書， 志願理由書			○	○	

総合型選抜と学校推薦型選抜では、下表に記した方法で、学力の3要素を評価します。

総合型選抜

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性等
人間発達文化学類 (芸術・表現コース)	小論文，面接，実技検査		面接
人間発達文化学類 (スポーツ健康科学コース)	実技実績調査書（第1次選抜） 小論文，面接，実技実績評価 （第2次選抜）	小論文，面接	面接
行政政策学類（夜間主）	口頭試問		
経済経営学類	課題レポート（第1次選抜） 大学入学共通テスト （第3次選抜）	課題レポート（第1次選抜）	
		グループ討論および面接（第2次選抜）	
共生システム理工学類	ポスター内容（第1次選抜） 総合問題（第2次選抜）	ポスター内容（第1次選抜）	志願理由書
	ポスタープレゼンテーション（第2次選抜）		
食農学類	自己推薦書（第1次選抜），課題論文（第2次選抜）		面接（第2次選抜）

学校推薦型選抜

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性等
人間発達文化学類	大学入学共通テスト，面接		面接
行政政策学類	調査書（評点），小論文	小論文，面接	面接
経済経営学類（A推薦）	調査書（評点）， 語学資格・検定基準	小論文，面接	面接
経済経営学類（B推薦）	調査書（評点）， 簿記検定試験の合格	小論文，面接	面接
共生システム理工学類	調査書（評点），小論文	小論文，面接	面接

人文社会学群

〔人間発達文化学類〕

1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、生涯にわたる発達への支援や、人間の発達を支える社会・文化への支援を通じて、学校はもちろんのこと、行政や企業、地域社会で活躍することを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間の発達を支援する教育および文化についての専門知識や技術を習得し活用する力
- ・現代的課題や地域的課題への問題意識をもち、個々の事象を複数の観点から捉える力
- ・人や文化の多様性を理解し、共感的態度をもって価値観や考え方の違いを超えた関係を築く力
- ・学問固有の問いの立て方、ものの見方・考え方を身に付け、それらを活用しつつ社会の改善に向けて探究し表現する力

人間発達文化学類には、教育実践、心理学・幼児教育、特別支援・生活科学、芸術・表現、人文科学、数理自然科学、スポーツ健康科学の7つコースがあり、1年生の前期(第1セメスター)から各コースのいずれかに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

〔一般選抜・前期日程〕募集人員 154 人

〔一般選抜・後期日程〕募集人員 12 人

〔総合型選抜〕募集人員 20 人

〔学校推薦型選抜〕募集人員 74 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

3. 入学者選抜の際に求める知識・技能・関心

各コースで養成する人間発達支援者は、人間に対する理解だけでなく、高校で学んだ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの知識・技能を基に新たな知識や技術を身に付けます。本学類では、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力・実技能力

(2) 得意分野に関する優れた理解・技能(以下のうち1つ以上)

- ・得意な教科や領域の意味内容を良く理解している。
- ・運動・スポーツにおける優れた技能・実績を有している。
- ・音楽や美術において優れた技量を有している。

(3) 教育・人間・文化・社会への問題意識、および人間発達支援に対する強い意志

〔行政政策学類〕

1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21 世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、様々な社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- ・学際的な創造力で社会に貢献する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類には、「地域政策と法コース」「地域社会と文化コース」の2コースがあり、2年生の前期(第3セメスター)からいずれかのコースに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

[昼間の一般選抜・前期日程]募集人員 108 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

[昼間の一般選抜・後期日程]募集人員 35 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

[昼間の学校推薦型選抜]募集人員 42 人

調査書(全体の学習成績の状況(評定平均値)4.3 以上)、志願理由書(「法・地域・行政・社会・文化について関心がある者」)提出を推薦要件とし、個別学力検査(小論文)と面接によって実施。

[夜間主の総合型選抜]募集人員 20 人

志願理由書に基づいた口頭試問によって実施。

3. 入学者選抜の際に求める知識・技能・関心

21 世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身に付けるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力(以下のうち1つ以上)

- ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。
- ・上記科目のうち、いずれか3科目について、優れた知識を有している。

(2) 現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力(以下のうち1つ以上)

- ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力
- ・政治、経済、社会的な問題などに関心を持ち、深く考察する態度
- ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力あるいは論点整理力

〔経済経営学類〕

1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・経済学と経営学の専門知識
- ・エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- ・フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- ・グローバルに思考し実践に進む力
- ・キャリアを見据え自立し協働する力

経済経営学類には、「経済学コース」「経営学コース」の2コースがあり、2年生の後期(第4セメスター)からいずれかのコースに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

〔一般選抜・前期日程〕 募集人員 114 人

〔一般選抜・後期日程〕 募集人員 40 人

〔総合型選抜〕 募集人員 11 人

〔学校推薦型選抜・A 推薦〕 募集人員 25 人

〔学校推薦型選抜・B 推薦〕 募集人員 25 人

〔私費外国人留学生選抜〕 募集人員 5 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

3. 入学者選抜の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる能力と、社会での実践力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力

:国語, 地歴公民, 理科, 数学, 外国語について, 修学に必要な知識を有している。

(2) 読解力・思考力・知識活用力・表現力

(3) 現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲

(4) 得意分野に関する優れた学力・実績(学校推薦型選抜に該当)

:学校推薦型選抜では, 上記の(1)・(2)・(3)に加え, 以下の点を評価します。

● 学校推薦型選抜(以下のうち1つ以上)

A推薦:英語等の外国語に関する優れた知識, ないし関連資格を有している。

B推薦:簿記に関連する優れた知識, ないし関連資格を有している。

理工学群

〔共生システム理工学類〕

1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

共生システム理工学類では、21 世紀の社会が抱える諸課題に挑戦でき、人・産業・環境が共生する社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標に掲げています。共生を科学する新しい教育・研究システムの下で、卒業までに次の4点を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- ・論理的で的確な立案力と決定力
- ・学際的・国際的に実践する力
- ・積極的かつ持続的な貢献意識

共生システム理工学類では、1年生で数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工系の基礎科目を学ぶとともに、「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・系統的に捉える力を養います。2年生の前期(第3セメスター)から専門領域名を冠した9つのコース*の中から1つを選択して専門領域を深く学び、3年生の後期(第6セメスター)からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。

*9コース:数理・情報科学コース, 経営システムコース, 物理・システム工学コース, 物質科学コース, エネルギーコース, 生物環境コース, 地球環境コース, 社会計画コース, 心理・生理コース

2. 入学試験の種類と内容

本学類では4種類の入学試験を実施します。それぞれの入学試験の科目などは以下のとおりです。

〔総合型選抜〕 募集人員 25 人

高等学校までの学習全般を含む総合問題, 自ら設定した課題についてのポスターを用いた発表と口頭による質疑, 志願理由書および調査書により, 高等学校の基礎的な学力, 論理的な思考力のある人を選抜します。特に持続的な探求意欲と行動力のある人を期待します。

〔学校推薦型選抜〕 募集人員 23 人

小論文, 面接, 志願理由書および調査書により, 基礎学力, 理解力, 論理的な思考力と表現能力を持つ人を選抜します。調査書の全体の学習成績の状況(評定平均値)が 4.0 以上の人を対象としており, 高等学校の間に勤勉な学習を重ねた人を期待します。

〔3年次編入学〕 募集人員 若干名

高等専門学校を卒業見込みの者を対象に, 面接と提出書類(志願理由書, 推薦書, 調査書)により, 本学類で学ぶために必要な基礎的な学力をもち, 学習意欲が高い人を選抜します。

〔一般選抜〕 募集人員 前期日程 70 人, 後期日程 42 人

理科1科目および数学(前期)または数学(後期)の記述試験による個別学力検査, 大学入学共通テスト(5教科7科目)および調査書により, 基礎的な科目を広く習得し, 理系科目の柔軟な思考力と応用力がある人を選抜します。

3. 入学者選抜の際に求める知識・技能・関心

本学類で学び成長するために, 以下に掲げる力を有している学生を求めます。

- (1) 高校までに身につけるべき基礎学力
- (2) 論理的な思考力
- (3) 自然現象や様々な課題を観察し分析する力
- (4) 観察し分析した結果や自らの考えを表現する力

農学群

〔食農学類〕

1. 食農学類の教育目標と求める学生像

食農学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- ・異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- ・グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- ・温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

食農学類では、2年生の後期(第4セメスター)から、食品科学コース、農業生産学コース、生産環境学コース、農業経営学コースのいずれかに所属することになります。各コースは、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身に付けた人材の養成を目標としています。

- ・食品科学コース:食品の分析について専門的な知識・技能を身に付けている。優れた食品の製造について知識・技能のポイントを修得するとともに、地域の食の伝統的な強みを活かす筋道を具体的に理解している。
- ・農業生産学コース:果樹・園芸等を含めて作物学の専門的な知識・技能を修得している。病害虫管理や土壌肥料の原理を学ぶことにより、安全な作物生産や環境保全型農業の基本課題を深く理解している。
- ・生産環境学コース:森林・農地・水利施設等の生産環境の実態を把握し、管理・活用システムを体系的に理解している。生産環境の修復や ICT 等の最先端技術導入などの実践的な課題に取り組むこともできる。
- ・農業経営学コース:農林業や食品産業の活動を社会科学の観点から分析する知識・技能を修得している。農商工連携などの新潮流の情報に詳しく、協同組合や共有資源の役割についても深く理解している。

2. 入学試験の種類と内容

食農学類では期待する人材を求めて、4種類の入学試験を実施いたします。

それぞれの入学試験の科目などは以下のとおりです。

〔一般選抜・前期日程〕募集人員 60 名

大学入学共通テストの5教科7科目(国語, 地理歴史・公民(1科目), 数学(2科目), 理科(2科目), 外国語), 個別学力試験の2科目(物理基礎・物理, 化学基礎・化学, 生物基礎・生物, 数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B), 英語から2科目選択)で実施。

〔一般選抜・後期日程〕募集人員 20 名

大学入学共通テストの5教科7科目(国語, 地理歴史・公民(1科目), 数学(2科目), 理科(2科目), 外国語), 個別学力試験の1科目(数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B), 英語から1科目選択), および面接で実施。

〔総合型選抜・地域社会貢献枠〕募集人員概ね 10 名

自己推薦書と調査書によって第1次選抜を行い、第1次選抜合格者を対象として課題論文と面接による第2次選抜を実施。

福島県内の高等学校等を卒業もしくは卒業見込みの者で、福島県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等の次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つもの、あるいは福

島県外の高等学校等を卒業もしくは卒業見込みの者で、福島県内か出身県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等で次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つもので、指定する資格のいずれかを取得しているものを対象とします。

[総合型選抜・実践教育経験枠]募集人員概ね 10 名

自己推薦書と調査書によって第1次選抜を行い、第1次選抜合格者を対象として課題論文と面接による第2次選抜を実施。

高等学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉に関する学科)、総合学科、あるいは中等教育学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉に関する学科)を卒業見込みの者、または高等専門学校の第3学年を修了見込みの者で、農学を学ぶ強い意欲を持ち、かつ指定する資格のいずれかを取得しているものを対象とします。

【人間発達文化研究科(修士課程)アドミSSION・ポリシー】

1. 人間発達文化研究科の教育目標と求める学生像

- ：人間発達文化研究科では、人間や地域や文化の抱える課題を自覚し、次世代を育てようとする意欲をもち、修了までに次の3つの力を身につけ、「人材育成のエキスパート」(経験を通して得た知識や技能を駆使できる熟達者)となることを希望する学生あるいは社会人を受け入れます。
- ・人間や地域や文化に対する問題意識を持ち、高度専門職業人にふさわしい知識と技能の修得(専門探究力)を望む学生あるいは社会人。
- ・課題を解決するために必要な組織や人材を活かしながら、修得した知識や技能を学校や地域で積極的に生かそうとする能力の修得(コーディネート力)を望む学生あるいは社会人。
- ・人間や社会の発達における文化の役割を理解し、次世代を育成しようとする能力の修得(人材育成力)を望む学生あるいは社会人。

：人間発達文化研究科には、教職実践専攻、地域文化創造専攻、学校臨床心理専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は、次の通りです。

- ・教職実践専攻では、地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する<教員のミドル・リーダー>をめざす学生を求めます。
- ・地域文化創造専攻では、諸文化を構成する学問分野における研究力・実践力を修得するとともに、地域支援に必要なコーディネート力および人材育成力を合わせ持つ<地域支援エキスパート>をめざす学生を求めます。
- ・学校臨床心理専攻では、臨床心理学および学校福祉の臨床的な実践研究に基づき、様々な課題を抱える子ども・青年や家族・学校に対応する効果的な指導・援助・支援を行う<発達支援エキスパート>をめざす学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

高度職業人として、「人材育成のエキスパート」となるためには、以下に掲げる関心、知識、技能を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ① 「人間発達」あるいは「地域や文化」に対する研究的な強い関心。
- ② 大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力。
- ③ 大学院での研究に関する明確な目標と計画。

【地域政策科学研究科(修士課程)アドミSSION・ポリシー】

1. 地域政策科学研究科(修士課程)の教育目標と求める学生像

本研究科は, 学際的かつ政策科学的な教育課程を通じて, 地域社会が提起する諸課題に対応できる理論と応用の研究能力を高め, 地域社会の各分野で中核的役割を担う高度な専門性を備えた人材を養成することを目的としています。

本研究科では, 広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み, 時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけようとする学生を求めています。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み, 時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけるために, 以下に掲げる知識, 技能, 関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・地域的諸問題および地域政策に対する強い研究上の関心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野・領域に関する学力
- ・大学院での研究に関する明確な目標と計画

【経済学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 経済学研究科の教育目標と求める学生像

経済学研究科は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における理論と応用との研究能力を高めつつ、高度の専門的知識および能力を養うことを目的としており、修了までに、以下の4つの能力を身につけた高度専門職業人(実務家および研究者)を目指す人材の入学を求めています。

- ・高度の専門的知識:経済学, 経営学, 会計学の専門分野の知識
- ・応用力・実践力:獲得した専門的知識を, 経済社会の諸課題に応用し, 実践する力
- ・研究遂行能力:自らの問題意識のもとに研究課題を設定し, 必要な情報や知見を収集・整理し, 課題の解決に向けて分析を展開する能力
- ・論理的思考力・分析力・表現力:蓄積されてきた知見や諸議論を論理的思考のもとに整理・分析することができ, また, 自らの主張・意見を, 論理的に説明する能力

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

経済学, 経営学, 会計学の学問体系を基礎とした, 実践的応用力のある高度専門職業人を目指す人材として, 以下に掲げる知識・技能・関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・経済, 経営, 会計分野の理論的, 実践的諸課題に関する探究心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力
- ・大学院での研究に関する明確な問題意識と計画

上記の観点から, 一般入試を実施し, 加えて, 多様な問題意識の志願者に対応するために次の 4 つの特別入試を実施しています。

- ・専攻所属生対象特別入試:本学経済経営学類において優秀な成績を収め, これまでの学習内容を基礎に, さらに高度な研究の継続を希望する志願者を対象にした特別入試
- ・社会人特別入試:社会人としての経験を活かして明確な問題意識をもって研究に励もうとする, 意欲的な志願者を対象とする特別入試
- ・商業科・公民科教員対象特別入試:高等学校教育での経験や問題意識を基礎にして, 最新の学術知識を修得し教育の現場に還元していこうとする志願者やキャリアアップを図りたいと考える志願者を対象にした特別入試
- ・修士再履修特別入試:明確な目的意識のもとに, これまでの研究成果の上にさらに経済・経営分野の研究を積み上げていこうとする意欲的な志願者を対象にした特別入試

【共生システム理工学研究科(博士前期課程)アドミッション・ポリシー】

1-1. 共生システム理工学専攻(博士前期課程)アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

○ 教育目標と求める学生像

温室効果ガスによる地球温暖化, 化石資源・化石エネルギー資源の枯渇, 経済発展に伴う環境負荷は, 地球規模の課題となっています。自然との共生を図りながら経済発展を可能とする, 新たな省エネルギー・省資源の技術開発が不可欠な状況になっています。またわが国では高齢化社会が到来し, 介護・医療分野においては高度な支援が求められ, 働く世代の減少に伴う産業構造の変革も求められています。

こうした課題の解決のためには, 従来の科学技術の枠組みにとらわれず, 地球規模の視野と多角的な視点を持ち, 「共生のシステム科学」という新たな枠組みの中で物事を考え, 対応できる力を有する人材が必要です。

共生システム理工学専攻では, 人－産業－環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し, 課題解決に向けて積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として, 本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には4つの分野があり, それぞれ以下のような研究を通して, 専門的な知識・技術・技能, 実践的な知識運用・課題解決能力, および多角的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかの分野に興味があり, 自分に適合していると考える学生を求めています。

〔数理・情報システム分野〕

数学, 情報科学, 経営システム工学, およびそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究

〔物理・メカトロニクス分野〕

物理学, 機械工学, 電気電子工学, 制御工学, およびそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究

〔物質・エネルギー科学分野〕

化学, 材料工学, 化学工学, エネルギー工学, およびそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究

〔生命・環境分野〕

生物学, 心理学, 地学, 気象学, 水文学, およびそれらを基礎とする生命・環境分野の研究

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

共生のシステム科学という新たな学問体系の枠組みの中で, 地域に貢献できる実践的な力を有する専門職業人となるため, カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として, 以下に掲げる知識, 技能, 意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに学ぶ基礎的な知識
- ・柔軟な思考力, 理解力, 応用力, および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と, 学習・研究に対する主体性

1-2. 環境放射能学専攻(博士前期課程)アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

○ 教育目標と求める学生像

環境中にある放射性核種は、大気や水の循環、生物の活動などにより、その形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動し、それを支配する因子は、放射性核種自身の物理的・化学的性質に加え、気象条件や土壌の性質、動植物の生理生態学的な特性など多岐にわたります。したがってその解明には、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などのさまざまな学問分野の知識を横断的に理解するとともに、俯瞰的に考察することが必要です。

これまで人類は、大気圏核実験や事故等によって人工放射性核種の環境放出を経験していますが、その影響については未解明な部分が多くあります。また、近年の高度な工業製品の開発に不可欠であるレアメタル等の天然資源の開発などに係る天然放射性核種の管理も、重要な課題となってきています。

環境放射能学専攻では、こうした課題に対応するため、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組むとともに、それを環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの課題解決ならびに学術の発展に積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として、柔軟な思考力、分析・観察力などを総合的に評価し、本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には3つの分野があり、それぞれ以下のような研究を通して、専門的な知識・技術・技能、実践的な知識運用・課題解決能力、および多面的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかに興味があり、自分に適合していると考える学生を求めています。

[生態学分野]

生態学、生物学、およびそれらを基礎とする放射生態学分野の研究

[モデリング分野]

地球科学、現象数理学、およびそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究

[計測分野]

化学、物理学、機械工学、電気工学、およびそれらを基礎とする放射能計測分野の研究

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

環境放射能学という学際的な学問体系の枠組みの中で、新たなる未知の課題に対応できる実践的な力を有する専門職業人となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに獲得する基礎的な知識
- ・柔軟な思考力、理解力、応用力、および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と、学習・研究に対する主体性

【共生システム理工学研究科(博士後期課程)アドミッション・ポリシー】

共生システム理工学専攻(博士後期課程)アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

○ 教育目標と求める学生像

共生システム理工学専攻博士後期課程では、持続循環型社会の実現や、少子・高齢化問題への対策など、21 世紀の課題解決に貢献できる人材の養成を目的としています。このような複雑で複合的な要因を有する課題の解決のためには、これまでの理工系大学院の中心であった自然科学に関する高度な専門知識および研究能力だけでなく、人間科学・社会科学的な素養も身に付けた国際的に活躍できる高度専門職業人・研究者が求められています。

そこで、人－産業－環境の共生を理念とし、共生数理システム領域、共生環境システム領域の2領域で研究プロジェクトを実施し、実践的な活動の機会を通して、自立して研究・開発を行う能力のある人材を養成します。これにより、人を中心とし、産業や環境との共生を考慮したシステム科学の創造・発展・継承を行い、国際的な貢献に資することを目指しています。

2領域の特色と目標は以下の通りです。

〔共生数理システム領域〕

本領域では、機械・電子・制御・数理情報・コンピュータ科学に加え、経営情報システム、技術経営(MOT)、生産管理とロジスティックスシステム等に関する教育・研究を行い、通信ネットワーク・ソフトウェアなどの情報通信システム、産業用ロボットなどの機械システム、医療・福祉システム、生産システム、輸送システム等さまざまな産業分野において地域社会のニーズに応え人と共生可能な工学系システムの創出を支える、卓越した技術開発力と高度な研究能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

〔共生環境システム領域〕

本領域では、機能性材料・資源循環・エネルギー技術等に関する教育・研究を行い、地域特性をも活かした持続循環型産業システムの創生に関する幅広い知識を備え、高度な工学的研究・開発能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。また、環境システム分野の幅広い知識に加え、水や物質循環に沿った環境変化の実態についてのフィールド調査、衛星観測からモデリングまでの様々な手法を活用して解析し予測することができる能力や、大気圏・水圏・地圏・生物圏・人間圏における環境保全や汚染浄化・環境再生等に関する専門技術を活かせる能力、さらに人間活動による影響について環境情報を活用して評価し持続可能な人間環境システムの管理・計画ができる能力、心理学・生理学とそれらに関連する幅広い知識を通じて人間の心理・生理的仕組みを解明する能力など、高度な専門的能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

持続循環型社会の実現、少子・高齢化問題への対策などの 21 世紀の課題解決に貢献できる人材となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と博士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・当該分野の学習の前提となる、理工系大学院博士前期(修士)課程までに獲得すべき基礎的な知識と研究経験
- ・理解力、柔軟な思考力、応用力、および表現力
- ・現代社会の課題を理工学的に解決するため、多様な人々と協働して積極的に取り組む意欲と、学修・研究に対する主体性

環境放射能学専攻(博士後期課程)アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

○ 教育目標と求める学生像

環境中にある放射性核種は、大気や水の循環、生物の活動などにより、その形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動し、それを支配する因子は、放射性核種自身の物理的・化学的性質に加え、気象条件や土壌の性質、動植物の生理生態学的な特性など多岐にわたります。したがってその解明には、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などのさまざまな学問分野の知識を横断的に理解するとともに、俯瞰的に考察することが必要です。

これまで人類は、大気圏核実験や事故等によって人工放射性核種の環境放出を経験していますが、その影響については未解明な部分が多くあります。また、近年の高度な工業製品の開発に不可欠であるレアメタル等の天然資源の開発などに係る天然放射性核種の管理も、重要な課題となってきています。

本専攻は、こうした課題に対応するため、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに、高度な専門知識に基づいて中長期的視点で総合的に取り組むとともに、環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野の課題解決ならびに学術的発展に積極的に貢献しようとする強い意欲を持つ人を対象として、学習の前提となる基礎力、柔軟な思考力、分析・観察力、学習意欲、学習・研究に対する主体性などを総合的に評価し、本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には1つの領域があります。

[環境放射能領域]

環境放射能学に関する高度な専門知識を基礎として、それらを深化・融合・発展させて環境中の放射能の動態メカニズムを明らかにし、人類の安心・安全な社会・環境を構築しようとする姿勢を育成します。

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

環境放射能学という学際的な学問体系の枠組みの中で、新たな未知の課題に対応できる実践的な力を有する専門職業人となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と博士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・当該分野の学習の前提となる、理工系大学院博士前期(修士)課程までに獲得すべき基礎知識と研究経験
- ・理解力、柔軟な思考力、応用力、および表現力
- ・環境放射能に関する課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と、学習・研究に対する主体性